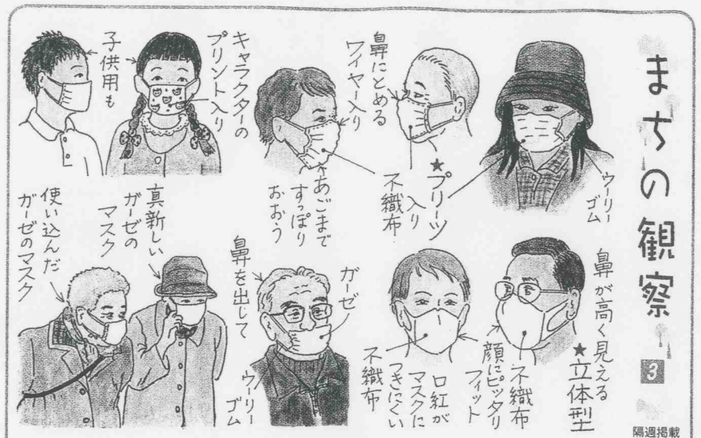
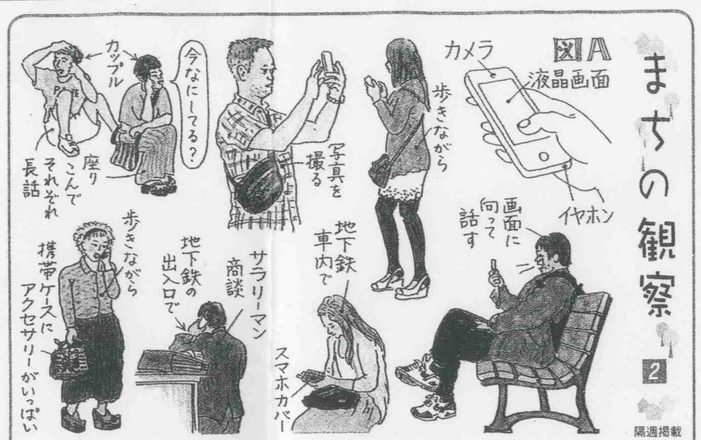
2-E



マスクの気持ち

マスクの季節がきた。新型ウイルスの風邪や花粉症のため、大型で立体型不織布のマスク（図★）がふえたのは1996年頃である。それまでのガーゼ型が減り、使い捨てとなった。風邪・花粉症に限らず、自分の顔が知られるのを嫌い、マスクで顔を隠す人もいる。化粧かくし、無精ひげかくし、異臭よけ、マスコミよけ…「あらっ？覆面マスク」と思われる人とすれ違った。満員電車の中でマスクの人びとが多い時、私もポケットからマスクを取り出しかけている。

考現学採集／岡本信也・岡本靖子



ながら歩き

携帯電話が出現した頃の話。20数年前、路上で遠目で見ると蒲鉾の板のような物を耳にあて声高に喋る人がいた。最近はこの板切れを指で擦ったり、立ち止まってじっと見たり何をしているのか、不可思議な人がふえた。地下鉄駅構内で「ながら歩きはおやめ下さい」とアナウンスがあっても、聞こえない様子。アッ！改札口の乗客と衝突しそう。

かつてテレビが出現した頃、「ながら食」が話題となった。今はケータイ、スマホ（図A）に夢中。電波にシビレた人びとが街を行く。

考現学採集／岡本信也・岡本靖子

掃除する人びと

ひと昔まえ、路上でゴミを焼く人がいた（図左下）。CO_2の大気汚染で焼却が禁止となった。ゴミのポイ捨て禁止、路上禁煙地区の設定等で、少し街はきれいになったかな。一方、ゴミがふえ続ける生活もある。人や車が多く集まる所。駅構内・広場・高層ビル・駐車場等では掃除する人が多い。明るい色の作業衣を着、ほうき、塵取、モップやゴミ袋を持ち、季節を問わず働く人たち。感動！

明窓浄机。私の部屋と机上も少しきれいにして観察記を書くことにしよう。

考現学採集／岡本信也・岡本靖子

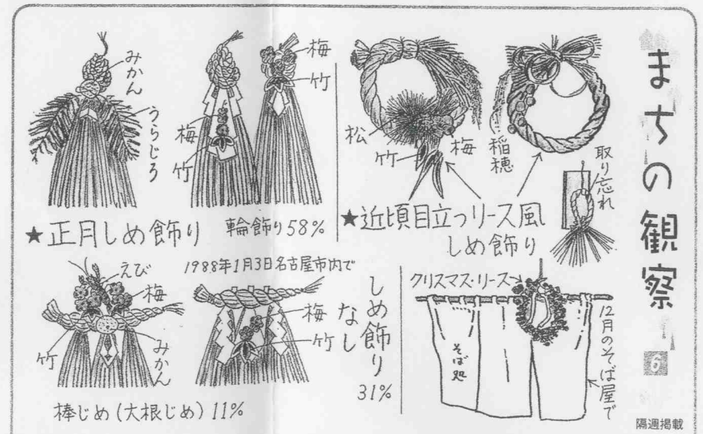
エプロンおばさん

30年前、下町風情のある地域で買物をするエプロン姿のおばさんたちを見た。エプロン（apron）と言っても和式の前掛けや割烹着★の人がチラホラしていた。割烹着は大正・昭和前期に主婦の間で、白くて衛生的とよろこばれた。主婦層のシンボルの様な身形だった。が、やがて女性の和装が衰退するにつれて、前掛け・割烹着姿も消えた。下町の風情も変容した。

近時はチュニック（tunic）★のような上っ張りを着、レジ袋・エコバッグで買物する女性が目につく。

（終わり）

考現学採集／岡本信也・岡本靖子

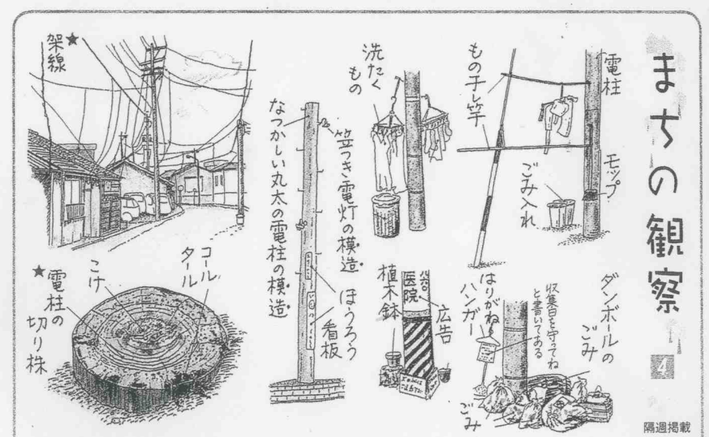


軒先の飾り

師走の街を歩いていると蕎麦屋の店先にクリスマス・リースを飾ったり、個人の住宅・マンションにもクリスマスツリー、イルミネーションを飾る人がふえた。

その昔、正月の「しめ飾り」を見歩いたことがある。輪飾りと棒じめが多く（★）軒先に吊す光景が正月気分をかもしだしていた。数年前からクリスマス・リースかしら？と思う新式のしめ飾り（★）を吊す家々が出現している。遠望すると、正月とクリスマスが一緒にきた感じ。年神サマもびっくりしている。

考現学採集／岡本信也・岡本靖子



電柱の記憶

秋空にクモの巣のように電線（図★）が走る。コンクリート電柱が林立する街はうっとうしい。が、電柱脇にごみ、植木鉢を置き洗たく物を干す人たち。洗たくは「暮らしの旗」だ。

観光化の街で木製丸太の電柱を復元する人がいた。昔なつかしい風景を再現しようと…。木製電柱を探索する友人がいる。見つからない時は電柱の切り株（図★）を発見してよろこぶ。

電柱は電気を津々浦々へ運ぶ棒であった。近代化のシンボル。電線を地中化しスッキリする前に見覚えておこう。

考現学採集／岡本信也・岡本靖子